

ぎわう元町もとまちの商店街しょうてんがいがありました。そのにぎやかさは反対に、学校は木々に  
かこまれて静かでした。

校舎こうしゃは、明治の初めにはめずらしい西洋風の建物で、机や椅子いすも新しい外国  
式でした。しかし、建物や設備せつびは外国風でしたが、中で勉強する生徒たちは和  
服ふくを着て、寄宿舎きしゆくしゃの部屋には畳たたみが敷しかれていました。勉強も、英語だけでなく、  
日本の古典こてんや漢文かんぶんもありました。

以前のキダーさんは、結婚してミラー夫人となっていました。ミラー夫人は、  
寄宿生を『私の家族かぞく』とよんでいました。家族のような親しきで、あたたかく  
むかえてくれたのです。

この寄宿舎にはいつて、かし子はようやく心の平和がもてるようになりまし  
た。規則正しい生活、家族同様の寄宿舎では、安定あんていした毎日が送れました。こ  
こにはあたたかい『家庭』(ホーム)があつたのです。